

# 神奈川県環境学習リーダー会 会報

No. 47

2005年  
10月 11月

## 役員会報告 (事務局長 大森 勝)

10月役員会 (10月11日)

### 1. 確認事項

9月末会員数 正会員 159名、賛助会員  
7名、特別会員 2名 合計  
168名。

### 2. 付議事項

エコタウン 2005 関連

10月15,16日辻堂海浜公園の当イベントで  
参加スタッフの作業要領を決定。

H17年度環境実践者養成講座

10月29日の当講座のWS (K・リーダー会  
担当) 及び終了後のK・リーダー会紹介要  
領を決定。

H18年度「親子で楽しむ環境展」

実行委員長は安丸代表。全役員は協力する。  
意見交換会

隔月・地域懇談会を実施しており、意見交換  
会としての開催を今年度は中止する。

### 3. 報告事項

第12回市民環境活動報告会

平成18年2月18日(土)県民センターで  
実施予定。

県グリーン教育支援システム

申請校が少ない様だが、追加申請し実施可能  
かどうかを県に確認する。

11月役員会 (11月14日)

### 1. 確認事項

10月末会員数

新規入会会員 15名を加え合計 182名。

正会員 従来会員 158名 (1名減) 新会員  
14名 計 172名

賛助会員 8名 (1名増) 特別会員 2名

### 2. 付議事項

温暖化防止月間イベント「地球温暖化防止  
の集い」(12/18)に昨年と同じく大気環境  
部会に参加要請があり、内容的に不明確部  
分を調整する。

18年度「子供環境体験教室」

環境科学センターの基本計画等の報告が  
あった。(昨年とほぼ同様)

教室メニューを公募する。

H17年度「第12回市民環境活動報告会」  
K・リーダー会からの発表については、エ  
コタウン2005の内容でまとまった。

グリーン教育支援

平塚市立みずほ小学校が追加申請し、その  
環境教育をグリーン部会が提案し採用さ  
れた。他に同様な例があれば追加提案する。

H17年度「親子で楽しむ環境展」

決算(アジェンダセンターに提出)内容が  
報告された。

H18年度「親子で楽しむ環境展」基本方針  
実行委員長(代表)より組織を含む方針が  
出され組織は継続審議。

### 3. 報告事項

エコタウンかながわ 2005

利用されたデータの管理要領が報告され  
た。

施設見学会

11月7日実施のJFEアーバンリサイクル  
ル見学会の報告があった。

## 新しい仲間を迎えて

K・リーダー会代表 安丸元一

平成17年度、環境実践者養成講座は10月1  
日～10月29日に土曜日5回の講座がKERECで  
組まれました。41名の応募者があり32名の  
方々が修了証を授与されました。残念ながらお  
仕事のご都合で修了を次年度に延期された方も  
いますが、新しく仲間入りされた神奈川県環境  
学習リーダーの皆さんにお祝い申し上げます。

京都議定書が発効された記念すべき年に、武  
所長の「かながわの環境」をスタートに幅広く

各分野の講座を受けられ、環境学習、保全活動  
実践者からは具体的な活動体験をお聞きになり、  
また活動を進める上で必要なWSで閉められま  
したことは誠に意義深いものと思います。

この中で環境学習活動の実践者による講座、  
及びWSの進め方の講師とアシスタントは当会  
のメンバーがその任を与えられ、皆様と供に有  
意義で、楽しい議論をいたしました。その都度  
講師から、或いは頂きました時間に当会、及び  
部、部会長のPRで、15名の方が入会されまし  
た。この13年にわたり伝統あるK・リーダー  
会会員として、県下の環境学習、保全活動の指  
導者として活動される事を会員一同・お祈りし  
歓迎の挨拶とします。

祝 新しく入会された方々（敬称略）

正会員	鎌田 裕二	正会員	原田 豊	正会員	横山 進
"	貴戸 禎治	"	藤田 滋	"	吉澤 誠一
"	栗原 明寛	"	船平 あけみ	"	吉田 光雄
"	佐々木 邦夫	"	森 清一	"	長村 吉洋
"	新田 章子	"	矢崎 祐美	賛助会員	伊藤 毅

## 『環境実践者養成講座』の 講座を担当して

（横浜市磯子区） 清水 幸夫

昨年に引き続き講座を担当させていただいた。演題としては、昨年と同じ“環境学習活動と地域環境活動の実践から見てくるもの”としたが、私の環境活動の歩みとして、10年にわたる環境活動実践体験例をありのままお話をすることに努めた。とくに、最近、日頃考えている地元での活動の意義について“地元学”を使ってお話をし、また、この学習リーダー会に、関心をもっていただけるよう客観的に学習リーダー会を評価し、県下でどのような役割を担うべきか、果たさねばならないか、本会の特色と課題などについてふれ、さらに、現在の活動をつぶさに報告し、魅力あるリーダー会を紹介したつもりである。

従って、この講座が、これから環境活動を始めようとする方々に少しでもお役にたてれば幸いです。

## 平成 17 年度『環境実践者養成講座』 のワークショップの実施

（綾瀬市） 近藤 作司

今年度の環境科学センター（KEREC）主催『環境実践者養成講座』が10月1日から毎週土曜日5回に亘って開催されました。今年も本講座の最終日（10月29日）のワークショップ（WS）の講義並びに実習の講師を依頼されました。K・リーダー会のご協力の下に昨年と同様グループワークによる学習を進めました。

環境保全活動の実践の場で課題解決などに応用できるWSを実際に体験し、地域での環

ある。

“目は地球を活動は地元で”を実践するための“地元学のすすめ”について、この機会に少しふれさせていただく。地元で根付いた活動をするために、地元のことをもっと学び、地元で仲間を作り、明るく、楽しく、継続することを大事にし、活動しようという狙いである。

ここでいう地元学は、住んでいる地域の歴史、町の変遷などの社会特性。人口、世帯数、自治会数、ごみ集積場所の数など統計的な数値。産業としての工業と商業。海、山、川、産物などの地元の特徴的資源。各種活動グループの把握と連携などをあげることができる。これらを環境に携わる地元の人々で学習することが大切だし、まちづくりとの共通点もある。

地元密着型のこの活動は、川がきれいになったり、ごみの焼却炉が減ったりして、その成果が目にも見えやすいし、活動仲間がそばにいたので力オが見える。また、身近な環境問題が地球規模の問題解決の一助になると考えられる。講座を終えてこの考え方を一層つよくし、これから“地元学と身近な環境”と題して取り組んで見たいと考えている。

境活動に生かしていただくこのカリキュラムに基づいています。テーマは「ワークショップの進め方（講義）とワークショップ（実習）」としました。ファシリテーターは北村博子さん、狩野光子さん、柳川三郎さん、香川興勝さん、鎌田英光さん、吉田榮一さんをお願いしました。

今年もグループ分けのテーマを「新アジェンダ 21 かながわ」の 11 分野 21 目標の中から選択してもらうために、前週 22 日の講義終了後「新アジェンダ」概要版を渡し、希望を記入しておいて頂きました。29日受付時に提出頂き（A）みどり・つち（緑・土）5名、（B）みず（水）5名、（C）環境教育・環境学習 6名、（D）ごみ（廃棄物）6名、（E）化学物質 5名、（F）まちづくり+エネルギー6名の6グループに分かれました。

このWSの進め方は、課題解決法の一つである[ブレン・ストーミング]や[KJ法]などによる解決策打ち出し方法を採用しました。各グループとも意見交換やアイデア出しなど活発に進めていき殆どタイムスケジュール通りに進行しました。最後は各グループの課題解決の方法や実践活動の取り組みなどを発表し、グループ員各自の実践プログラムを発表しました。今年は昨年の反省に立ち時間短縮に努め、全ての発表の後、質疑応答や意見交換を行いました。殆どが化学物質に関係する項目だったことが特色でした。

終わりにこのWS実習への振り返りシートを記入して頂きました。受講者33人中28通の主だった点は、昨年同様「受講者がかなりすでに実践していること知った驚き」や、

## 『エコタウンかながわ2005』 に参加して

廃棄物GO3部会担当 狩野 光子

国や県、会社、学校、そして地域でと、頻りに環境学習などが行われるようになっていのに、どうして環境は悪化していくのか？と考え込んでしまうこの頃です。

そんな時、有明海の諫早湾干拓事業のため『海が死んでいく姿を見ているようだ』と漁民らが裁定申請をおこしたが、『データ不足』のため、堤防閉鎖と海洋汚染の因果関係は立証出来ないという判決が載っておりました。この時、【目に見えないところで起こっている変化】を示すデータが、環境保全の必要性を説得するのに重要な事に改めて気づかされました。

そこで『エコタウンかながわ2005』に参加するにあたり、

- \* 私たちリーダー会の仲間は、部会を中心に色々な情報を収集し地道な活動を行っている。
- \* このデータをリーダー会会員の身近な地域で、ごみの広域化処理を基軸に県下9ブロックにわけ総合的にパネルに纏めてみる。
- \* 他の町と比較することによって地元の環境の現実が鮮明になるのではないかと？
- \* 今後、お互いの情報を交換しながら内容を充実させ、足元の環境保全に貢献していく。
- \* 環境科学センターがホームグラウンドのよ

「色々な意見の交換が出来た喜び」などを記載していました。またファシリテーターの重要性や意見の集約の方法の 実習が実践の場で活用できるとか、個人プロジェクトの表明に関して「身近なことから実践します」等の記述があり講座の効用を感じました。

一方、少数ではありましたが、「殆ど役に立たない」「余り楽しくなかった」「WSの進め方が最後まで理解できなかった」などの記載もありました。今後の研究課題と受け止めます。

最後に、この講座の開催にご尽力頂きました環境科学センターの野崎さん、田中さんに感謝申し上げます。また、安丸代表以下K・リーダー会の皆さんにお礼申し上げます。

うな我がリーダー会の使命でもあるのでないかと提案しました。

幸い、代表を始め各部会の役員が一丸となって協力体制を取ってくれました。また日頃交流のない方々のご参加や協力も戴き大変嬉しく思いました。そして環境科学センターの野崎さんや田中さんが、はじめての企画を大らかに受け止めてくださり、印刷など協力体制をとって下さったことは、この上もなく心強かったです。

お天気にはちょっと恵まれませんでした。思い出にのこる爽やかな2日間を経験させて頂き、皆様に心から感謝申し上げます。

7月22日：『エコタウンかながわ2005』実施要領説明会 県立辻堂海浜公園

10月7日：概要説明会 - 県民サポートセンター

10月12日：印刷・パネルの入れ替え - 環境科学センター

10月14日：パネルの引き取り

10月15日：搬入・展示 - 県立辻堂海浜公園

10月16日：展示・搬出 - 県立辻堂海浜公園

10月20日：後かたづけ - 環境科学センター

この市民が苦勞して集めた貴重な資料を、今後さらなる研鑽を積み重ね、内容を充実させながら「予防の原則」につながる活動にかして頂けましたら幸いに思います。



11月の役員会で来年2月18日行われます「市民環境活動報告会」にリーダー会全体として2コマを使って発表することになりました。多くの皆さんのお越しを心からお待ちしております。

過日ラジオで、次世代に『豊かな環境を残す時』はすでに去っており、『豊かな環境を返す時』だと言っておりました。本当にそうだ

と思いました。そのためには、自然（緑地、大気、水）と人間の生活（エネルギー、廃棄物、化学物質）など総合的に情報を纏めて分析し、的確な判断をしていくことが必要だと思います。

リーダー会ならではのこの活動が、やがては専門家達のデータを政治家や行政が注目し法制化へと繋がることを切に願います。

～（アンケートにお答えいただきました）～

### アンケート結果の集計

どこからお見えになりましたか？

県内 31 県外 2

(県内の)どこにお住まいですか？

1ブロック(横浜)・・・5

2ブロック(川崎)・・・2

4ブロック(湘南東)・・・21

5ブロック(湘南西)・・・3

何に関心を持ちましたか？

ごみ・・・・・・・・・・17

エネルギー・・・・・・・・11

化学物質・・・・・・・・9

みどり・・・・・・・・8

そら・・・・・・・・6

水・・・・・・・・6

地区ではじめて知ったことがありましたか？

\*化学物質について

\*地域によってもえるごみの種類が違うこと

\*化学物質の使用量が多いこと

\*化学物質・CO2共に他市より多く排出している

\*ごみがあまりにも多いこと

\*家庭の化学物質

\*洗剤が年間35ト、川へ、CO2も県下一

\*化学物質などが川を汚していること

\*日本の畳の良さを知った。香りがよい。

\*大気汚染物質が3位であること

\*環境科学センターが平塚にあること

\*排水処理を川へ流していること

何か行動に移そうと思われましたか？

はい 26 いいえ 2

ご意見や感じたこと

- \* ふるしきを生活の中で使用していこうと思いました。
- \* 汚染の高い地域に住み通学していますので配慮します。
- \* 湘南海岸の木々を切らないで下さい(剪定)
- \* 様々なレベルで環境を考えることが出来ることを体験出来て楽しかったです。(ふるしきつつみなど)
- \* 定年後に環境がらみのボランティアをしたいと考えています。
- \* 有害物質(ごみも含めて)を出さない。作らないこと。
- \* ふるしきマジックが楽しかった。
- \* コスターづくりを始めてやって楽しかった
- \* コスターを作ってきれいにできて楽しかった
- \* 資源化出来るごみが捨てられている。自分だけでなく自治体ももっと分別して収集するよりに変わっていいと良い
- \* 竹ぽっくり作り、5才の息子が大喜びでした。ありがとうございます。
- \* 竹ぽっくり作り最高でした。またやって下さい。
- \* 環境問題は1人ひとり一つ一つからはじめ地域全体と継続が大事 砂浜のピンチ、清掃も大事
- \* 環境問題は1人ひとりの意識が大切だと思います。こういったイベントがあると子ども達も身近に環境について教えてあげることが出来とても良いことだと感じた。
- \* NO<sub>2</sub>、CO<sub>2</sub>の削減に向けて各地区に分けた

## 第2回地域交流会

### “清らかな自然・大気と語ろう会”開催

地域活動サポート部長 香川 興勝

地域活動サポート部では、私たちの環境保護活動はそれぞれの地域の特性に応じて、その時代の変化にしたがって、そこに住む人々が意見を持ちより・話し合い・実践を通して持続可能な社会(サステイナブルな社会)を具体化していくことが大切と考えています。

このような理念のもとに10月1日(土)に第2回地域交流会を藤沢市学習文化センターで開催しました(年1回の開催)。地元・藤沢市在住の立石定己さん、岩下次郎さんには会場の選択と予約や広報活動に多大の協力をいただきました。誌上を借りて感謝申し上げます。

ことで はっきり地区の有様がわかり対策が望まれる。水を少なくつかう。電気 ガスの削減、省エネ。

- \* 買い物のごみをへらしていく必要があります。トレイプラスチックの包装など
- \* 地域のデータがよく分かりました。
- \* エコ活動は大事だとも思う

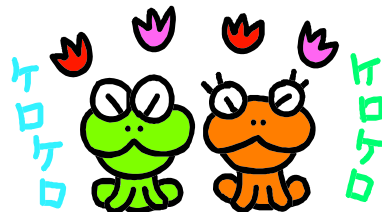
ご協力ありがとうございました。

最後に、ゆで蛙にならないために私たちからお願ひがあります。

蛙さんからお願ひ・・・

マイバックをもって行く	はい	3	1
	いいえ	2	
電気のスイッチをこまめに切る	はい	3	1
	いいえ	2	

アンケートの結果、会員スタッフの皆さんが来場者1人1人に丁寧に接して下さり、子供から大人まで楽しんで頂けたり、活動の主旨を理解して下さいたのではないかと思います。またパネルは説明員が解説して上げた方が、心に残るように感じました。



この交流会が契機となって地域で活動している会員とこれから活動をはじめようとする方々が一体となって、地域の持続可能な社会が具現化されることを願っての開催でした。

出席者は26名でした。藤沢市とその周辺の横浜・鎌倉・茅ヶ崎からの出席者が15名、その他座間・綾瀬・海老名・伊勢原・小田原からの出席者が11名でした。前回同様地域における交流会の目的の一つが達成されたと思える会であったと思います。

今回は“大気環境保護活動”をテーマにして、県下で積極的に活動しているK・リーダー会大気環境部会の活動報告やその活動を指導していただいている環境科学センター・相原さんに講演をお願いいたしました。また、最近利用度の増えている家庭用ゴミ処理機から発生する臭気物質について環境科学センター高橋通正さんに講演をお願いしました。

- ・講演 家庭用ゴミ処理機から発生する臭気物質について 45分  
環境科学センター専門研究員 高橋通正氏
- ・活動報告 K・リーダー会大気環境部会活動報告 30分  
大気環境部会長 猪股満智子氏
- ・講演 大気環境汚染と地球温暖化 2時間  
環境科学センター専門研究員 相原敬次氏

活動報告、講演 2 題共に参加者の関心が高く、かつ演者が質問に対して気持ちよく的確に回答し

## 施設見学会 JFE アーバンリサイクル(株) を見学して

地域活動サポート部長 香川 興勝

今年の施設見学会は川崎市川崎区水江町の JFE アーバンリサイクル(株)を訪ねた。ここは四大家電製品(テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、エアコン、洗濯機)のリサイクル工場で年間 60 万台の処理が行われている。この分野では大工場です。

この工場では資源再利用・有効利用の現場を目の当たりにして、今後の環境保護活動の参考にするため訪問した。

参加者 14 名(当日一部電車のトラブルがあり 3 名欠席)が 13 時に工場に到着し、先ずミーティングルームで副社長福島様の直々の説明と DVD での説明を受けたあと見学した。

この会社の事業の特徴は；

資源地に近いところでの回収なのでコストが低く抑えられること。

製鉄所の安価なユーティリティーや保全システムの利用が可能なこと。

近隣住民への環境影響がないこと。

高い資源回収率 : 回収されたプラスチックを高炉原料化することで、再資源化率は 80% 以上と高い。

断熱フロンの回収 : オゾン層破壊や温暖化要因のガス、可燃ガスを高回収率で回収し、地球環境への負荷を最小限に押さえる。

ていただけたために質疑応答が止まらない盛況ぶりでした。特に環境科学センターの講演 2 題は、実働に基づいた報告で、実感として伝わってくる生々しさが良かったのではないかと思います。演者も、こんなに活発な質疑応答があろうとは思っていなかったとのことでした。

今後、この交流会を各地で継続して実施することにより、会のネットワークが広がり、会員の活動が活性化して、K・リーダー会の活動の方向性を見いだしていく源泉になればと考えます。皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

水処理がいらぬ環境保全型 : 廃棄物処理の全工程を通して排水を一切出さない。

等が上げられる。都市型の製鉄所の中に設立した都市型のリサイクル工場が JFE アーバンリサイクルの由縁ということである。

この工場での処理対象物とその地域は次の通りです。

\* 三洋電機、三菱電機、日立製作所、シャープ、ソニー、富士通ゼネラル、その他の使用済み家電製品(TV, 冷蔵庫、洗濯機、エアコン)が対象。

\* 対象地域は、神奈川県下を主体に南関東一圏。

\* 家電 4 製品以外に OA 機器、自動販売機、ゲーム機器、厨房機器等の産業廃棄物。

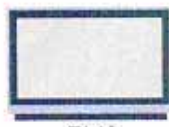
工場見学で思ったこと；

手際よく、次々と分解されていく冷蔵庫やテレビが見られたが、意外と手作業による解体が多いこと、立ち作業で働く従業員が多いことが気になった。工場従業員の 1/3 が外国人とのことであった。

この様子を見て、これらの製品に限らず、設計の段階から分解することを前提にした分解しやすい設計が必要であること。プラスチック製品では生分解性プラスチックなどの環境に配慮した材料の選択が必須であることを実感した。

これらの一端を考慮して JFE アーバンリサイクル社では、電化製品製造企業を社員の実習を引き受けて、分解の実体験を実施しているそうです。

次図に 4 家電品の分解回収品とその利用先を示した。



テレビ

- ブラウン管(ガラスカレット)
- プラスチック(製鉄原料)
- プリント基板(非鉄精錬)



施設全景  
TV棟と手分解/破碎棟、貯留ヤードです。



冷蔵庫

- コンプレッサー(非鉄精錬)
- プラスチック(製鉄原料)
- 冷媒フロン(熱分解)



冷蔵庫手分解ヤード  
コンプレッサー、プラスチック、冷媒フロンなどを回収します。



エアコン

- コンプレッサー(非鉄精錬)
- 熱交換器(非鉄精錬)
- 冷媒フロン(熱分解)



ウレタン減容機  
冷蔵庫の断熱ウレタンからフロン、シクロペンタンを分離回収します。



洗濯機

- プラスチック(製鉄原料)
- モーター(転炉)
- 塩水(中和処理)

### 第三回地域懇談会 相模原市で開催

地域活動サポート部長 香川興勝

隔月に実施している地域懇談会も三回目になった。今回は相模原市在住の荒谷さんの協力をえて、11月14日にJR淵野辺駅徒歩1分の大野北公民館で実施した。

相模原市も人口63万人。駅周辺に青山学院大学、麻布大学、桜見林大学や宇宙研究所等があり、活況のある街という印象を受けた。

懇談会への出席者17名。その内、近郊の会員7名、非会員2名、役員8名であった。僅か2時間の会合でしたが、相模原在住の会員から多くの活動報告やリーダー会への投げかけがあった。数多い活動実態を紙面を通して紹介しきれないが、今後紹介していただく機会を作りたいと思います。

活動事例他を略記します。

- ・小学生3年、4年生への水環境教育実施中。平成17年度6校実施。
- ・相模原不法投棄マップの作成と対策検討。

- ・河川法が出来てから不法投棄が減少した。
- ・湧き水調査と定点分析実施。
- ・公民館活動の中に環境問題のことを入れて活動実施中。
- ・文化部の行事：環境講座  
(下水処理、廃棄物など毎年テーマを決めて実施)
- ・部会活動、特に作業内容について広報等でPRすることが必要、新人確保に必要。
- ・水環境部会：臨時調査員を募集したい。  
会員・小林義博さんはTV、新聞紙上に数多く紹介されている。会誌に紹介？
- ・プールの中の生物/河の中の生物・比較実施。
- ・全国環境カウンセラー協議会の現状紹介：先崎武氏

以上の例にも示す通り、懇談会を通して地域での活動実態がよく把握できる。これを今後の環境学習リーダー会の活動に生かさねばと思う昨今です。

次回は平成18年1月、横浜市で実施する予定です。多数の方々の参加をお願いいたします。

## 平成 18 年度「子ども環境体験教室」 教室及び講師チームの募集について

事業担当 柳川 三郎

今年の夏休みにおける「子ども環境体験教室」が過去最高の生徒からの応募が実現できたことは、神奈川県環境科学センター・神奈川県環境学習リーダー会の積み上げた努力の結集の成果です。18年度の「子ども環境体験教室」開催について企画の時となりましたので皆様から教室及び講師チームの応募をお願いいたします。

応募は以下の内容を基本をお願いいたします。

### 記

#### 1、趣旨

体験を通して環境に対する関心や意識を高め、子どもたちの心に残る、体験的教室の大きい教室を目指す。

#### 2、対象

参加者は小学校4年生から6年生までと「保護者同伴」を歓迎とします。

#### 3、教室数・定員

前年と同じく5教室、1教室の定員は24名、最大28名まで受け入れが出来ます。

#### 4、開催場所

神奈川県環境科学センターの実習室、学習室、センター外の敷地内

#### 5、実施時期・時間

## 第 12 回市民環境活動報告会 の開催についてお知らせ

実行委員長 柳川 三郎

- ・開催日 平成 18 年 2 月 18 日（土）  
午前 10 時から午後 4 時まで
- ・開催場所 かながわ県民センター2 階  
大ホール
- ・共催 神奈川県環境学習リーダー会  
神奈川県環境科学センター

1、発表内容 地域における環境保全活動・環境学習活動の報告と地域保全グループ等による調査研究の成果報告。

実施時期は夏休み中（土日）も可、時間は半日を少し超えても可です。

#### 6、教室内容

環境への関心の喚起や動機付けを大切にされた内容であり、集団（グループ）で体験できるようにする。

- ・お願い 水質や大気などの環境調査で子どもたちの個別の関心への対応を伴う教室は行わない、又、17年度の実績5教室のうち変更可能な教室数は2教室です。

#### 7、講師数

講師は各教室4名とする。教室のチーフリーダー講師を必ず決めてください、又、材料費は子どもたちから徴収をせず、神奈川県環境科学センターで準備いたします、ただし業者から購入しづらい物品は神奈川県環境学習リーダー会が負担です。

#### 8、応募締め切り時期

H.18年1月31日までに応募をお願いいたします。

#### 9、主催

神奈川県環境科学センター。神奈川県環境学習リーダー会が全面的に協力して教室を開催いたします。

#### 10、応募申し込み先

事業担当 柳川 三郎

住所 〒259-1201 平塚市南金目 722-2  
& fax 0463 - 59 - 2000

E-mail : sm-y@dab.hi-ho.ne.jp

- 2、発表者 神奈川県環境学習リーダー会、神奈川県環境学習リーダー、地球温暖化防止活動推進員、かながわ環境カウンセラー協議会、一般市民。
- 3、基調講演 市民の環境実践活動に役立つ内容。
- 4、ポスターセッション パネルをいかして環境保全活動、環境学習活動、調査研究成果を参加者と意見交換の場。
- 5、交流会 第12回市民環境活動報告会の終了後の午後5時から、皆様の参加をお待ちしております。

詳細内容は次号の会報の発行時にチラシでお知らせいたします、大勢の皆様のご来場をお願いいたします。



## 第5回「親子で楽しむ環境展」 について

実行委員長 安丸 元一

早いもので、18年度「第5回親子で楽しむ環境展」の準備に掛かる時期になりました。この数回の役員会で討議し、この環境展は当会の最重要イベントであり、役員全員が実行委員として、その任に当たることにしました。従って代表が実行委員長を兼務いたしますので、よろしくをお願いします。

この環境展は、県民総意の拠りどころである「かながわアジェンダ21」の30年後の目標に向かって、我々の日頃の活動を多くの県民に披露すると共に、全会員が一年間の活動発表の場とし、パネルディスカッション、或いは実演を通じ会員相互の交流・そしてお互いの啓発になればと思います。

## 自然観察会のご案内

自然環境部会 近藤 作司

会報N0.46にて予告案内いたしました、自然観察会を次の通り行いますのでご案内します。多数の方々のご参加をお願いします。

【開催日時】平成17年12月11日(日)

9時～12時

【場所】横浜自然観察の森 自然観察センター

横浜市栄区上郷町1562-1

TEL: 045-894-7474

【集合場所】自然観察センター前

【集合時間】8時45分

【交通】JR大船駅より神奈中バス船08系統「金沢八景駅」行き横浜霊園前下車

京急金沢八景駅より神奈中バス船08系統「大船駅」行き横浜霊園前下車

京急金沢八景駅より神奈中バス金24～26系統「庄戸」「上郷ネオポリス」行き横浜霊園前下車

所要時間；JR大船駅より約20分、

金沢八景駅より約15分

横浜霊園前下車

今から本番に向けての構想をご検討頂き、多くの会員の参加をお願いします。なお第一回実行委員会を開催しますので、役員以外の方で実行委員として企画に参画頂ける方をお待ちしています。

記

1. 環境展開催日時 平成18年6月18日(土)  
10:30～17:00

2. 環境展開催場所 かながわ県民センター  
1階展示場

3. 第1回実行委員会開催日時：  
平成17年12月12日(月)16:00～17:00

4. 第1回実行委員会開催場所：  
かながわ県民センター

なお、実行委員会に参画される方は、当日(12月12日)までに代表(安丸)又は事務局長(大森)へご一報ください。

自然観察センター徒歩約7分

【行事】12月11日の第2日曜日は、《バードウォッチングの日》に当たり横浜自然観察の森友の会主催「とりのくらし発見隊」が実施されます。当会の自然観察会は上記「友の会」と一緒に、「バードウォッチングをしながら、森の生きものの観察」をします。

終了後自然観察センターにて部会懇談会を行います。(部会入会歓迎)

【持ち物】 小雨決行としますので雨具対策をお願いします。

双眼鏡、ルーペ等有れば持参してください。

昼食は各自ご用意願います。

【申し込み先】

近藤作司 T&F: 0467-78-6843

E-mail: s-kondo@khaki.plala.or.jp

や 野外のマナー自然が主役

さ 採集しない/観察しよう

し 静かに楽しむアウトドア

い 生きものたちにも思いやり

き 危険にそなえて正しい知識

も 持って帰ろう思い出とゴミ

ち ちいさな命にもおおきな心

で 出かけよう/フィールドへ!

(横浜自然観察の森 ガイドマップ より)

## 部会活動

### エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

#### 活動報告(10月~11月)

エコタウンかながわ 2005

10月15日, 16日 於: 辻堂海浜公園

リーダー会の一員として、エネルギーに関する諸統計を実行委員に提供し、横断的環境情報のマップを作成に協力。

リーダー会の特長を生かした試みであった。また、これを通じて、日ごろの情報の蓄積の重要性を感じた。今後、指標となる市町村を決めて、意識的に情報を蓄積してゆきたい。

10月度定例会:

10月23日(日) 13:00~15:00

会場: 県民サポートセンター 708号室

参加者: 井上、児玉、岩澤、大森、吉田、北村、安藤

リーダー会役員会の報告

エコタウンかながわ 2005 実施報告

特に、パネル展示のデータにつき詳細説明

検知管式気体測定器について

部会として購入した本器の取り扱い

説明と実演およびカリキュラム案の

紹介

情報交換

ポスト京都議定書に関して

(日経エコロジー等参考にしながら)

今年度加入部員

10月29日、17年度環境実践者養成講座が終了し、4名の入部申し込み者を得る事ができた。

11月13日 AM: 新会員に経過と今年度の方針に関する説明を行った(於: 県民サポートセンター)

11月度定例会

11月13日(日) 14:00~15:00

会場: 藤木部会員宅

参加者: 北村、藤木、大森、小田、安藤、吉田栄、岩澤、児玉、吉田光(新部会員)

18年度「子ども環境体験教室」について

・基本的な考え方の説明

・今年度と同様に、アース・エコとの共同参加の方向を確認。

新部会員加入状況説明

情報交換

不耕起農法とCO2吸収に関する記事紹介等

#### 活動予定(12月~ 06年2月)

1. 定例会(於: 県民サポートセンター)

12月11日(日) 13:00~15:00 602号室

1月8日(日) 13:00~15:00 602号室

1月29日(日) 9:00~13:00 708号室

2月12日(日) 13:00~15:00 601号室

### ケナフ部会

ケナフ部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会員が携さわった2005年9月~11月までの活動及び12月~2006年1月迄の予定について報告します。

#### 1. ケナフ部会定例会

9/20 9月定例会開催 ケナフ圃場の手入れ、圃場周囲の草刈りを行う。

ケナフの花を収穫して、環境科学センターの乾燥機を使用して乾燥条件を変えて、乾燥させる。花は92%が水分の為、秋になり日照が減るとカビがはえて、日干しでは乾燥が出来ないので貴重な実験が出来ました。

10/20 ケナフ畑の刈り取りを実施

今年は10月に刈り取りをしてみました。毎年11月、12月で刈り取りをしていましたが今回は10月に実施してみました。種は乾燥中ですが、良い種が取れるが心配ですが、

上手く行けば来年からこの時期に収穫したいと思います。

11/25(予定) ケナフ部会恒例になりました、第3回の研修旅行を、埼玉県小川町で紙漉を実習することを予定しています。

#### 2. 対外的な活動

9/17 相模原市北公民館「夢教室」にて古紙紙管を利用した、パカパカ作成教室開催する。ケナフとは特に関係無いのですが、ケナフ部会の古澤さん、安部さん、小林さんの協力で開催しました。

10/2 ふるさとの福祉の集い(横浜市港南区野庭地区)にケナフ展示と「ケナフの紙漉」体験コーナー開催 小川正敏さん

今年で3回になり、ケナフに関心がある方が約80名紙漉を体験して頂き大変盛況でした。本「集い」は日頃活動しているボランティアの方々の活動発表会の場で来訪者は600

名程度の野庭地区（社会福祉協議会）の大イベントです。

10/29 第29回「磯子まつり」にケナフの展示と「ケナフの紙漉」体験コーナーを実施

横浜市磯子区役所区民ホール 1F 磯子区環境を考える会（代表 清水幸夫）

小川正敏さん他会員4名参加

約75名の方が「ケナフの紙漉」を体験し、展示した生木見本を見て、ケナフ植物に関して熱な質問がありました。

11/1 平塚市立大野小学校4年生3組に紙漉指導。

小川正敏さん、荒谷輝正。

環境科学センターで実施した「子供環境体験教室」に参加した子供、及び見学された伊藤美奈子先生の依頼で「紙漉き」について指導を行う。

その後、生徒が再度、自分達で勉強して「学内のまつり」で保護者、その他来訪者に自信を持って、教えていたと伊藤先生から嬉しい電話を頂戴しました、今月中に6年生も体験するとのことです。

3. 今後の予定

2006年 1月定例会 市民環境報告会 準備

作ったパカパカを使って歩いているところ



小川正敏さんの紙漉実演



紙漉を体験している生徒



## 大気環境部会

部会長 猪股 満智子

丹沢・大山の立ち枯れの原因は酸性雨にあらず

活動報告（10～11月）

10月1日（土）13～16：30 藤沢市学習文化センター

地域交流（学習）会「大気汚染と温暖化」「生ごみ堆肥化と臭気」

講師；相原、高橋 KERC 専門研究員

新情報を教えていただけたことに加え、恒例の研究発表会と異なり、会場、設定が違ふところまで親しみやすくわかりやすい話になるのと、参加者一同「来て良かったね。大勢に聞いていただき良かった」という感想になりました。

今回、湘南版地域紙に掲載したことから茅ヶ崎市民2名の参加がありました。ただし生ごみの件だけで帰られたのが残念でなりません。地域活動サポート部・役員の皆様ご協力ありがとうございました。

11月22日（火）13：30～16：30 KERC 実習室部会、12月度大気NO2測定の捕集管準備

ご参加ください！分科会で活動事例発表とまとめ担当役をします

活動予定（12～1月）

12月1日（木）18時～2日（金）18時の24hr測定

12月10日（土）13時～ KERC 実習室で分析

12月18日（日）10：30～16：30

横浜開港記念会館

県・アジェンダ推進センター主催

「温暖化防止の集い」でまとめ役と事例発表

10：30～12：30 「そら」で分科会事例発表

13：30～16：30 フリー討議、まとめとアクションプラン発表

1月23日（月）部会とマッピングプロジェクト  
NPOセンター大船（玉縄交流会館分館）

13：00～ マッピングプロジェクト

13：30～ 部会（測定評価、来年度に向けて）

自然系モニタリングまだ間に合います！

ジョロウグモ調査（メスが大きくなって見つけやすいよ）

地域地図をコピーし、見つけた地点に×を記す提出×切；12月9日必着

KERC 環境学習担当宛か又は

猪股（ &fax：0467-32-6858 ）まで

# グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

## 活動報告 (10~11月)

10月30日 ミーティング

<今後の進め方について>

今後の目標設定 アイデア出し

11月23日 ミーティング

= 豆知識のページ =

## 地球温暖化防止月間

広報部 羽生田 洋啓

地球温暖化防止月間とは：

12月は地球温暖化防止月間です。

地球温暖化を防止するための国際条約「京都議定書」が京都で採択されたのが1997年の12月でした。このことから、環境省は翌年の1998年から毎年12月を地球温暖化防止月間に指定しています。

この月間のねらいは、地球温暖化防止に関する普及啓発活動を全国で行うことにあります。

地球温暖化防止月間の行事：

この月間にあわせた行事が毎年全国各地で行われてきました。今年は環境省としての行事はありませんが、神奈川県では、県とストップ温暖化ネットワークとの共催で次の行事が計画されています。

月日：12月18日(日)

場所：横浜市開港記念会館

内容： かながわ地球環境賞の表彰式  
地球温暖化防止のつどい

本記事執筆時にはこの行事の内容は立案中でありましたが、本会報が会員の皆様に届く頃には行事詳細が確定して発表されているでしょう。

チーム・マイナス6%：

日本は二酸化炭素等の温室効果ガスを1990年度比で6%削減する義務があります。これを実現するために環境省が推進している国民的プロジェクト、それが「チーム・マイナス6%」です。

一人ひとりの力はそれほど大きくないかもしれない。一人ひとりの行いは、ちょっとしたことも

<小学生向けプログラムづくり>  
紙芝居のストーリーの検討  
ゲームの開発

## 活動予定 (12~1月)

来年1月に小学校で初めての授業を実施予定で、これからプログラムや小道具作りを始めます。参加希望の方は、杉山までご連絡ください。

しれない。しかし、それがチームとなって結集すれば、地球規模の大きな力になれる。「チーム・マイナス6%」という名前には、そんな思いが込められています。

「チーム・マイナス6%」では、CO2削減のために次の6つのアクションプランが提案されています。

- ・温度調節で減らそう
- ・水道の使い方で減らそう
- ・自動車の使い方で減らそう
- ・商品の選び方で減らそう
- ・買い物とごみで減らそう
- ・電気の使い方で減らそう

地球温暖化防止キャンペーンロゴマーク：



このマークは、地球温暖化防止をテーマとする、各種キャンペーン、イベント、広報活動などに使用する目的でつくられました。このマークは誰でも使えますが、商業目的での利用はだめです。マークの管理は財団法人日本環境協会が行っています。マークは赤色です。

## 会員の広場

### 横浜環境行動賞の受賞

清水 幸夫（横浜市）



磯子区環境を考える会は去る 11 月 12 日横浜市市長よりパシフィコ横浜会議センターで横浜環境行動賞を受賞いたしました。これは会員諸兄弟の地道な環境活動の努力が評価されたものであり、また、磯子区地域振興課、磯子区ごみゼロ推進委員会のご尽力、ご協力によるものと感謝しておりますし、喜んでおります。

この磯子区環境を考える会は、4 年前の磯子区生涯学級「わたしの暮らしと環境」の講座を担当した事務局と講座に参加された方々が一語になり運営され、今日にいたっている会であり、

### 頼みの第 14 回環境科学センター業績発表会に出席して

横浜市栄区 村上 述

「自動車排ガスを科学する」 - このキャッチフレーズが関心をそそる。恒例の催しは地域で環境実践する者には環境事象を科学する絶好の機会、頼みにしている。「科学する」の語いは環境用語に付くと大変似合うようだ。現実の問題として認識されにくい、自らの率先が求められる課題だからだ。「なぜ」「どうして」「アッソウか」が不可欠で、科学の方法への期待感にほかならない。

冒頭、武所長さんのお話には生きた情報、課題の投げ掛け、見通しの筋道に共鳴する。今年

会員は 30 名ほどで、そのうち環境学習リーダー会の会員が 6 人もおられることも特色かとも思われます。

会としては、環境教育、環境関連施設の見学会、「ヨコハマは G 3 0」への協力、大岡川源流域に親しむ活動など、明るく、楽しく、継続することをモットーにして取り組んでいます。また、去る 6 月 4 日には、環境学習リーダー会が主催する第 4 回「親子で楽しむ環境展」へ出展参加させていただきました。

今回の表彰の対象になったのは、「ヨコハマは G 3 0」への協力事業で、当会としては、関係各位の協力を得ながら、お父さんのための G 3 0 のしおり制作への協力、磯子区の分別資源はどこへ？というビデオ制作への協力、ごみ分別活動への協力など地道な活動が評価されたものと思いますし、適切な行政側との取り組みへの協働体制がとれた結果とも考えられます。

こういう、地域での地道な活動は、表彰当日の中田市長の挨拶にもありましたが、ごみ焼却工場を減らす具体的数字をあげ、説明されました。このように成果が数字でみえる活動は活動意欲が高まるように思われます。

この受賞を機会に、皆さんのご協力やご支持をえながら、地元で身近な環境課題に継続して、地道に取り組んでいきたいと考えています。

は学生の間の水俣病公害の風化を指摘され、新潟の「第 2 水俣病」の 60km 上流の発生源を強調、アスベスト問題を引合いにノーアアの教訓を示唆される。

発表講演は 1 テーマ 25 分、用意のパワーポイントで「ハイ次」式のかけ足でも、常道だ。聴く側より話す側の都合であったとしたら御座成り行事に終わるだろう。要旨集が配布されているのであれば、5 データ画面に制限、工夫されると「欲しい情報」が話の中に見えたりするのではないかと。選択、焦点化によって、市民へのアプローチが生ずると思う。わが母体の事業ゆえにぐちってしまう。

5 発表講演を通してピックアップした点は、

大気汚染物質の一つの VOC（揮発性有機

化合物)の自動車からの排出量測定をトンネル内で実施。16年度は、15年度より平均で27~61%の減少が示唆されたこと

自動車から排出される有害化学物質が、道路は市からどのくらいの距離まで分布、拡散しているか。945m地点の常時監視測定局を特に含めていること。

自動車排出ガスのNO<sub>x</sub>、SPM、SO<sub>2</sub>の濃度の測定値と気象条件との関連、殊に冬季の大気安定性、接地逆転層を指摘していること。

これらの事柄については「基準」「有害」の概念を醸成し、温暖化問題との兼合いも念頭におい

て知的消化を図っています。

僅かに設定された質疑は重いものが滲んでいた。「いつも研究結果の示唆で、その先にいかない」(川崎の方)、「NO<sub>x</sub>も同様な測定をしないのか」(横浜の方)、「小学生のぜんそく増加に対応がない」(厚木の方)、「考案の硝酸性窒素含有工場廃水の浄化装置は現在導入が可能か」(平塚の方)。こうした発言は何ともかみ合いが悪い。実践主体の細分化、熱意の然らしむる所以で、展望が映ってはいないか。「不滅爆弾」はまだ新しい事。大気問題は基準、不安、許容の一連の認識に端を発する。監視数値に対する考え方、パターン化の示唆を願ってやみません。

## パースこのごろ

田村 了一(オーストラリア在住)

10月に真夏日があったり台風が来たり日本の天候異変を耳に致して居りますが当地パースでも異常気象が続いています。比較的温暖な所なのですがなかなか暖かな春がやって参りません。西オーストラリア州の春のワイルドフラワーは世界的に有名ですが、美しい花の絨毯として最も象徴的なエバーラスティング、通常キングスパークで9月の末にはその姿を消すのですが今年は10月中旬になって見頃となりました。



ブルーレシノリア

中国の影響がこちらの国にもものすごく好景気をもたらしています。西オーストラリア州で産出している鉄鉱石や石炭が一挙に値上がりし潤沢にマネーが入ってきています。かつての日本

のバブルの如く建設ラッシュ、至る所で宅地開発や住宅建設が進められていて全くの人手不足、不動産の取引が活発です。

しかし、好景気は物価の上昇をもたらしています。オーストラリアドル高、物価上昇が相俟って、2000年に始めて当地に来た時に比べ円換算にしますと物価は約2倍になった感じが致します。初めて当地に参りました時には円が強く、物価も安くて日本の半分の経費で生活できると感じておりましたが、今では諸物価日本の方が安いのではないかと感じられる程です。

今年の初めまで日本人には半永住に近い滞在を認める退職者VISAを発行いたして居りましたが、これが取りやめになりました。今までは年金でも余裕の生活が出来ると言われていましたが、今ではちょっと難しくなってきたと言うのもひとつの要因ではないでしょうか。

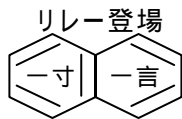
ガソリンの価額が日本と同様急上昇致しております。市の中心部への車の乗り入れ規制と大気汚染防止を目的に以前からパークアンドライドを勧めていて各駅前には大きな駐車場があります。しかしなかなか実行が伴わず、何時も駐車場は空いていましたがガソリン価額上昇が市民の動行を一挙に変え今では早朝から駐車場は満杯です。原油価額の上昇は種々の問題をもたらしますが大気汚染防止には効果大と言う事に相成りそうです。

私の所に週1回レッスンに来るオージーが従来ガタガタのVANに乗っておりましたが最近カッコイイ三菱の小型トラックに乗ってくるようになりました。金回りがよくなったのかと聞き

ましたら、安い出物があつたので買い換えたとのこと。日本ではいまディーゼル車からの微粒子排出規制で旧型車がどんどん廃車になってい

ます。その車が世界のあちこちに出回っているのです。ひとつの地球大気と言う観点からみれば少々皮肉な現実ですね。

## 紙芝居



### - 古くて新しいメディア -

グリーン部会 米山 有美

今年8月に開催された『かまくらフェスタ2005』で、グリーン部会はグリーン購入をテーマにした紙芝居を上演しました。

伝えたい事はたくさんあるけれど、聞く人にとって退屈だったり、わかりにくかったりしては面白くない、『来てよかった!』と言われるような内容にしたい、という出発点から、紙芝居作りは始まりました。

メンバー同士のメールやFAXのやりとりで、紙芝居の概要が決まって行きました。人の集中力は15~20分が限界という事で、長かったシナリオはポイントを絞った上で大幅に削除されました。その後も用語の適切さや表現方法について、フェスタ直前まで意見の交換が続きました。期限が迫り、もうそろそろ決めないと...と少し焦りも感じましたが、それぞれが率直に意見を述べ合っって合意を目指した過程は、私自身の大きな財産になりました。またメンバーからの鋭い指摘に「そうだったのか。」と気づかされる場面も数多くありました。

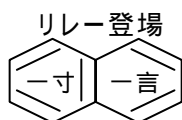
この紙芝居には観客の注意を逸らさない為の、いくつかの仕掛けがあります。ひとつは途中に観客への語りかけとクイズを入れるタイミングを設けたことです。内容は上演する地域や状況に合わせて差し替えます。買い物バッグや実物の野菜も、リアリティを出すために用意しました。本番では、語りかけによって観客が参加者になり、自分の場合は?と考えてもらえたようでした。

また、観客にキャラクターのイメージをはっきり見せるため、上演者を複数で役割分担しましたが、これは演じる側にとっても楽しい工夫でした。

製作にあたっては、テーマに取り上げた旬の野菜を、とにかくおいしそうに表現しようと努力しました。イラストは強調したい事を好きなように強調することができるので、紙芝居という表現方法は好都合です。ざらっとした紙の風合いや、塗り重ねでしか出せない質感も予想外の効果でした。

紙芝居の魅力は、演者や客観客、演じる場所・日時によって自由自在にアドリブを入れ、ライブ感をもって上演できる柔軟性の高さです。古風でアナログなメディア、紙芝居。内容や上演方法には、解決しなければならない数多くの課題がありますが、これからも環境プログラムの「相棒」として、大きく育てていきたいと思っています。

次回は杉山さんの登場です。



## 小田原市の環境ボランティア活動

香川 興勝 (小田原市)

自分の住んでいる街の環境ボランティア活動の現況を紹介することにしたい。こんな街もあるのかと読んでいただければ幸いです。

小田原市には環境ボランティア協会があり、

事務局は市役所環境部環境政策課内にある。この協会の事業は広報誌“エコポスト”の発行、会員の交流会の開催と家具を中心とする再生販売のリサイクルプラザの運営です。しかし、この協会には環境ボランティア団体が69団体、個人が86名登録し種々の分野で積極的な実践活動を行っている。各団体の活動内容は大略次のようです。

自然環境保全 37団体 : 森林保護育成、自然観察、鳥類保護、蛭・メダカの保育成、河川・海水の水質調査、河川の土手の植林・美化、清掃活動(川、海岸、小田原城址、一夜城址、神社、観光施設など)

生活環境保護 27団体 : 動物保護、清掃(市道、駅、観光地トイレ、市の行事の事前の道

路清掃など)、ゴミ処理(EM菌利用、分別、他)

リサイクル活動 8 団体 : 啓発活動、エコ商品の啓発推進、不要品の再生販売、牛乳パックの回収・リサイクル

地球温暖化防止 5 団体 : 太陽光発電促進、環境教育、事業者・家庭への対応、事業者への啓発実践活動、他

自然環境保全、生活環境保護活動団を目的とする団体が多い。これは、小田原市が自然環境に恵まれた歴史ある土地として発展してきたためでしょう。他の市町村のこういった分類を見たことがなく比較評価が出来ないのが残念です。

しかし、最近になってリサイクルや地球温暖化防止関係の団体が活動をはじめている。一方、最近になって環境ボランティア団体の交流や情

報交換の機会が出来た。各団体が協力して活動を進めていこうという姿勢が明確で感動した。小田原市民は北条五代(西暦 1500 年代)前後から、こういった活動に熱心に協働する DNA が備わっているという猪瀬直樹氏(道路関係四公団民営化推進委員会委員、作家)の意見にも同感を憶える昨今です。また、こういった活動に行政も熱心で、昨年从小田原市市民活動応援補助金制度が発足し、総額年間 250 万円が 16 団体に交付されている。この選考会や活動報告会もお互いの情報交換の場となっている。美しい自然に囲まれた歴史ある郷土の発展を願って、持続可能な社会作りに少しでも貢献できたらと思っている。

今回は水環境部会長の斉藤昭一さんをお願いしました。

## 掲示板

### 記事の訂正とお詫び

会報 No. 46(9月30日発行)の記事の中で、1 ページの 9 月役員会 2. 付議事項に、「第 12 回市民活動報告会を、実行委員長を柳川副代表とし平成 18 年 2 月 19 日」と記載していますが、「第 12 回市民環境活動報告会を、実行委員長を柳川副代表とし平成 18 年 2 月 18 日」の誤りです。訂正してお詫びいたします。

(広報部)

### 広報部に頼りになる部員が加わりました!

広報部では、先の 46 号において、異例のことではありましたが編集後記でリーダー会広報活動の危機を訴えたところ、今年 10 月ご入会の長村吉洋さん(13 期)がメンバーに加わりました。皆さん、どうか宜しくお願い致します。

広報部では、更に一人でも多くの会員のご参加を得て、会員相互の情報交換、会の活動の情報発信源として会報並びに HP の内容充実を図ってまいりたいと、下記の通り部員を募集いたします。皆さんの応募をお待ちしております。

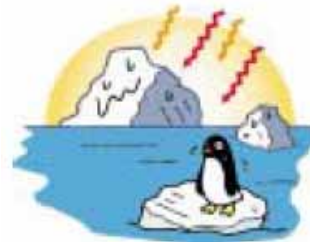
担当役割: 下記の一つ又は複数

- ・会報の編集企画
- ・会報記事の取材
- ・会報紙面作成(パソコン操作)
- ・会報の印刷・発送
- ・HP の更新

募集期限: 随時受け付け

連絡先: 広報部長(本誌末尾参照)

(広報部)



### 編集後記

先日道路を歩いていて交差点手前に着いた。その時、信号待ちで止まっていたバスのエンジンが始動する音が聞こえました。あっ、アイドリング・ストップしていたんだ、ということに気づきました。信号待ちでアイドリング・ストップする車に気付くことが今までなかったので、始動音を聞いたときは新鮮な気分になりました。実は、筆者は信号待ちでアイドリング・ストップすることはありませんでした。12 月は地球温暖化防止月間でもあり、これを契機に信号待ちでアイドリング・ストップすることを始めました。ただし、信号待ちの時間が比較的長くなりそうなときですが。

広報部 羽生田 洋啓

発行人: 神奈川県環境学習リーダー会

代表 安丸 元一

編集人: 広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日: 2005 年 11 月 30 日